

# 第2回信濃川下流(山地部)圏域流域協議会 ～塩谷川流域～

## 説明資料

平成24年11月22日

新潟県土木部河川管理課  
新潟県長岡地域振興局地域整備部

# 1. これまでの河川整備計画の協議内容について

## これまで開催された協議会について

今回の流域協議会は、平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害が発生した塩谷川を河川整備計画へ位置づけるにあたり、学識経験者及び地域代表の方々から意見を聴くことを目的としたものです。

第一回協議会の後、住民説明会を7月中旬に開催しました。

### 【第一回協議会】平成24年5月30日開催

- ・ 現地調査
- ・ 塩谷川の概要について説明
- ・ 塩谷川の整備目標および改修方針について説明
- ・ 塩谷川河川整備計画の素案について説明

### 【住民説明会】平成24年7月11日開催

- ・ 塩谷川の概要について説明
- ・ 塩谷川の整備目標および改修方針について説明
- ・ 塩谷川河川整備計画の素案について説明
- ・ 地元住民からの意見聴取
- ・ 河川アンケートを実施

# 第一回協議会の議事要旨について

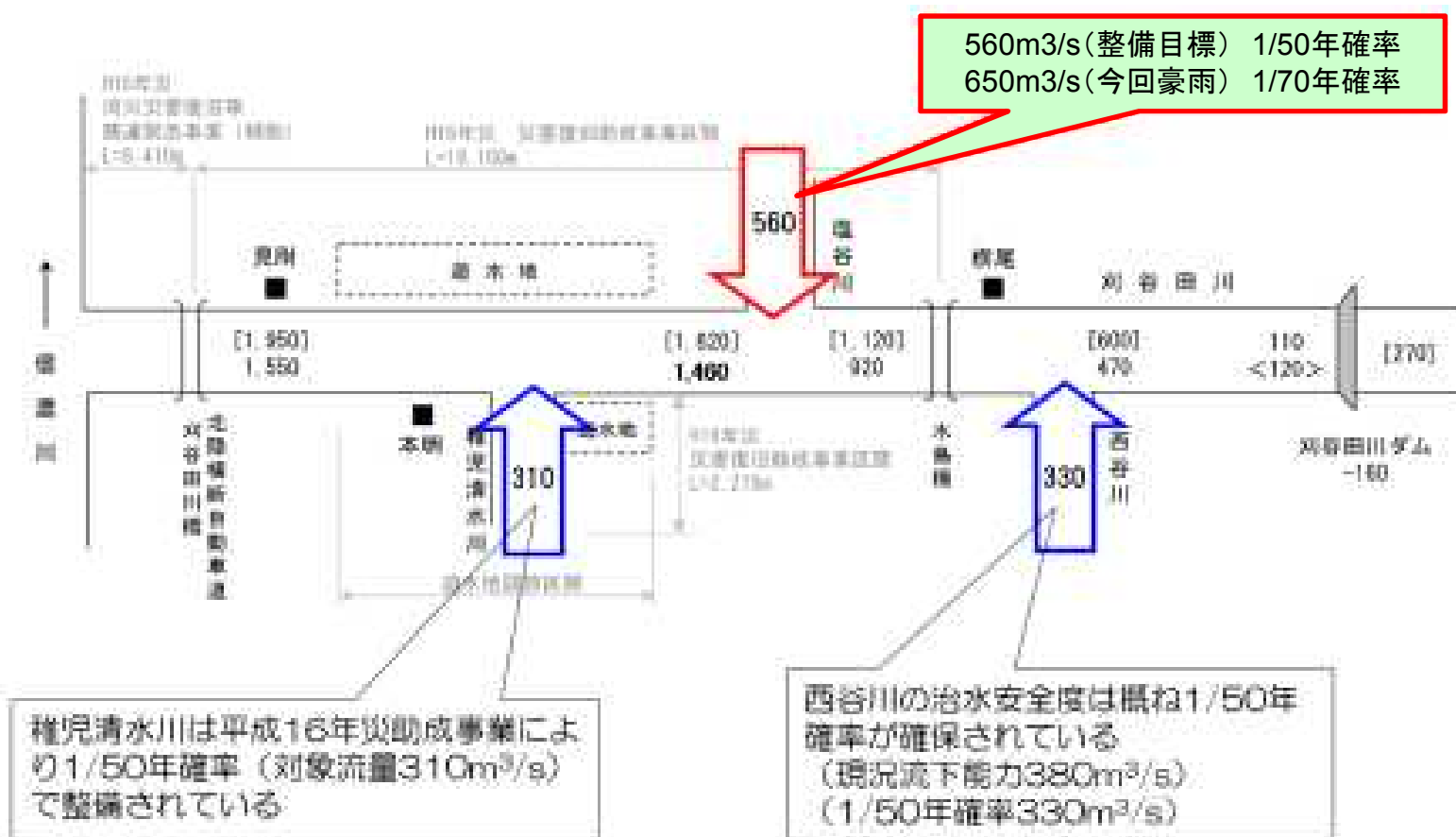
事務局から塩谷川の河川整備内容について具体的な説明が行われた。

項目	事務局の説明
整備目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 記載案① 平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害が生じた塩谷川については、刈谷田川との本支川の河川整備規模のバランスを考慮し、流域内の稚児清水川などと同程度の治水安全度を確保することを目標とします。</li><li>・ 記載案② 平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害が生じた塩谷川については、刈谷田川との河川整備規模のバランスを考慮するとともに、沿川の土地利用や地形特性を踏まえた河川整備により、流域内の他支川と同程度の治水安全度を確保することを目標とします。</li></ul>
整備規模	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1/50年確率規模とします。</li></ul>
改修方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平成23年7月新潟・福島豪雨で浸水した中上流部の集落を守ることを最優先に河道を整備する。</li><li>・ 浸水エリアに集落が存在する中上流部を重点的に施工する。浸水エリアが農地のみの下流部については沿川の土地利用や地形特性を踏まえ、堤防満杯で1/50年確率の流量に対応した河川断面を確保する。</li><li>・ 河道や護岸等の設計においては、法線是正や湾曲部外岸側の根入れなどの補強を検討する。霞堤は、堤内地の土地利用を考慮した上で保全する。</li></ul>
環境配慮	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 工事に際しては、現地発生土を用いて在来の植生の早期回復を図り、動植物の生息・生育環境に配慮するとともに瀬や淵ができるように整備する。 また、河川の横断方向や縦断方向への連続性を保ち、多種多様な動植物の生息・生育環境に配慮した川づくりを行う。</li></ul>

# 塩谷川河川整備計画(整備目標)

## ○塩谷川の整備目標(治水)

- 刈谷田川助成事業では、支川稚児清水川も合わせて改修されたが、本支川の流域内資産バランスの観点から1/50年確率である。
- 塩谷川についても他の刈谷田川支川との整備規模のバランスを考慮して1/50年確率とする。



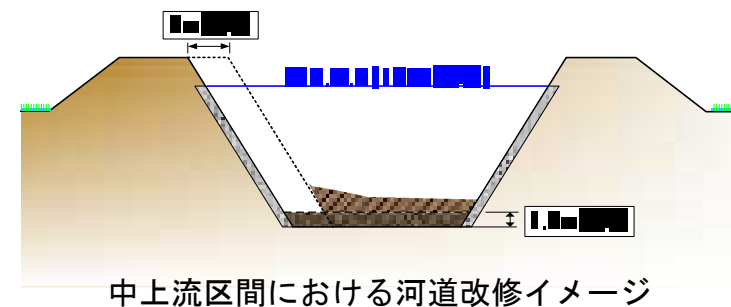
# 塩谷川河川整備計画(改修方針)

- 平成23年7月新潟・福島豪雨で浸水した中上流部の集落を守ることを最優先に河道を整備する。
- 浸水エリアに集落が存在する中上流部を重点的に施工するが、下流部については沿川の土地利用や地形特性を踏まえ、堤防満杯で1/50年確率の流量に対応した河川断面を確保する。
- 河道や護岸等の設計においては、法線是正や湾曲部外岸側の根入れなどの補強を検討する。霞堤は、堤内地の土地利用を考慮した上で保全する。

## <中上流区間における改修方針>

人家を守ることを最優先とした改修

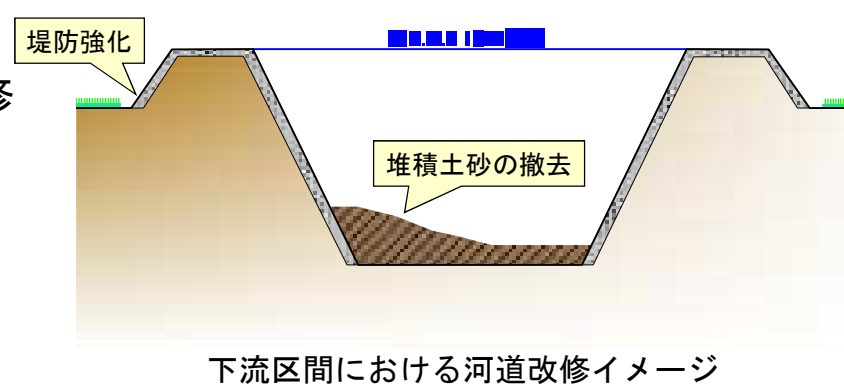
- ◆河床掘削、及び引堤による流下能力向上
- ◆現況法線の一部是正
- ◆霞堤の存置



## <下流区間における改修方針>

霞堤の存置や下流の地形特性を生かした改修

- ◆河床掘削による流下能力の向上
- ◆巻堤などによる堤防強化
- ◆現況法線の維持
- ◆霞堤の存置



# 第一回協議会の議事要旨について

	委員からの意見	事務局回答
①	流量については、刈谷田川流域の平均雨量もしくは塩谷川流域の降雨のどちらで算出したものか。	塩谷川流域に降った雨を用いて流量を算出している。
②	降雨解析の確率評価を刈谷田川流域で行っているが、塩谷川流域で評価した際の確率規模を示してほしい。	第二回協議会で事務局側で資料を用意して再度説明を行うこととしたい。
③	霞堤はそのまま残すのか。	今回豪雨では氾濫水を迅速に河川へ排水することができ、浸水時における被害軽減効果が確認できたため、存置する計画である。
④	河床掘削は底生生物へ強い影響が残るのではないか。過去の事例等を参考に、極力生物等への影響が少ないように努めていただきたい。 改修直後も瀬や淵が形成されるように努めていただきたい。	実施にあたっては現地確認の上、必要に応じて調査等を十分行い、周辺環境に配慮した川づくりをおこないます。瀬や淵が形成できるように整備します。
⑤	水質調査は今後行うか。またBOD以外の調査は行うのか。	人家や事業所等からの排水調査結果等は第二回協議会で説明します。
⑥	河床掘削をしても将来的に土砂が再度堆積するのではないか。	河川を管理する立場から適切な河道断面を確保するため、維持管理に努めます。
⑦	改修を行う堰の構造等の検討は行っているか。	詳細な堰の構造等の検討はおこなっておりません。実際に改修する段階において、堰の構造等について意見を伺いながら検討いたします。
⑧	塩谷川の整備目標に関する記載については、案②がいいのではないか。	(意見として回答なし) →住民説明会は案②を記載した資料を配布している。

## **2. 前回協議会での意見に対する回答**

# 意見① 塩谷川の流量算出の雨について

■塩谷川の流量算出については、各観測所で観測した雨量を下記面積により加重平均し、塩谷川流域に降らせることで算出しています。

	塩谷川流域に占める面積(km <sup>2</sup> )	割合(%)
前山	0.7	1.2
栃堀	7.2	12.4
栃尾	9.7	16.7
吉ヶ平	6.9	11.9
梅野俣	33.6	57.8
合計	58.1	100



## 意見② 塩谷川単独での確率評価について

解析期間:昭和10～平成23年まで

解析単位:二日雨量

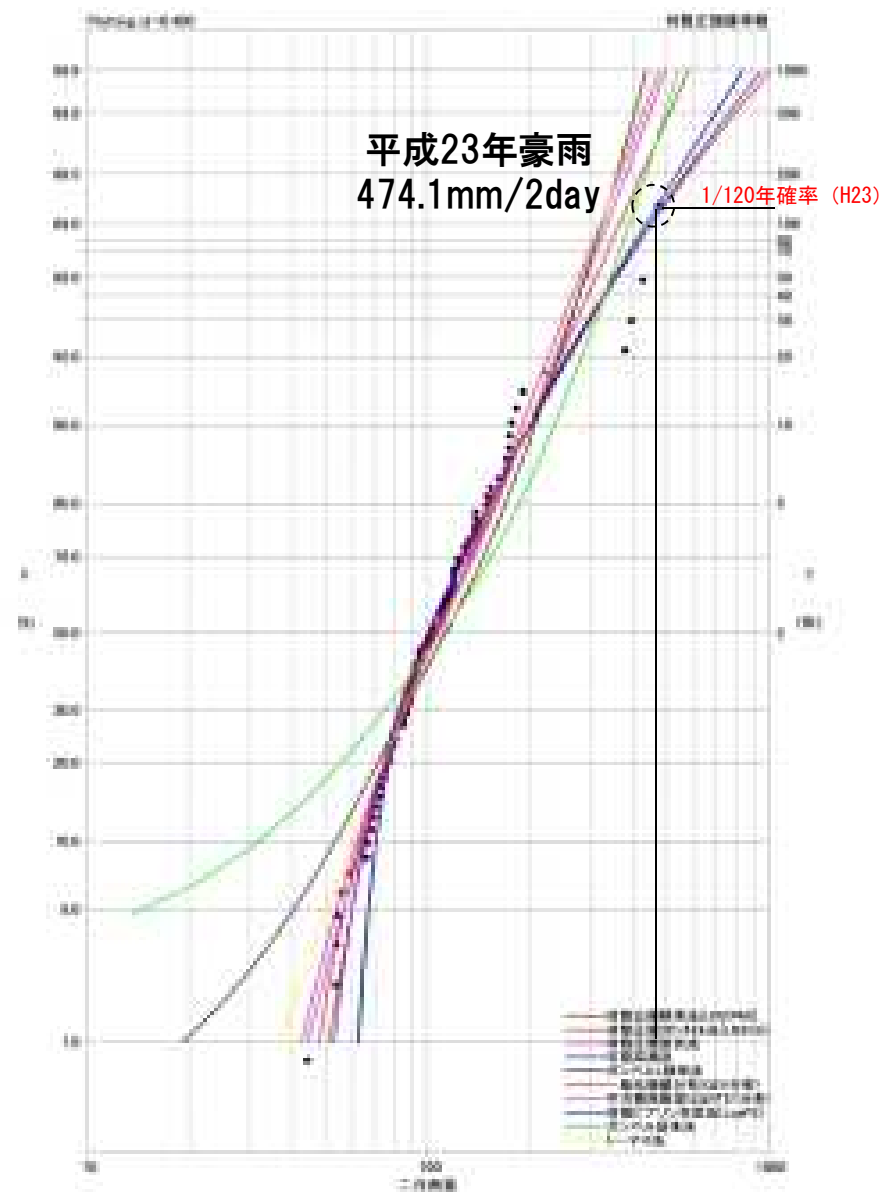
解析手法:GEV分布

### ■ 確率評価:

H23.7.29豪雨 474.1mm/2日→1/120年確率

### 確率計算結果(GEV分布)

確率年	確率雨量 (mm/day)
500	800
200	580
150	525
100	455
80	420
70	400
50	355
30	295
10	200
5	155



塩谷川流域 降雨解析結果 (年最大2日雨量)

### 意見③ 塩谷川における霞堤の役割

①洪水前



塩谷川の霞堤は山付の地形を活用した構造となっています。

地形の勾配が急なので、広くはん濫はしません。

②洪水中(はん濫前)



塩谷川の霞堤

③洪水中(はん濫後)



堤防が欠損、もしくは越水してもかすみ堤から排水されます。

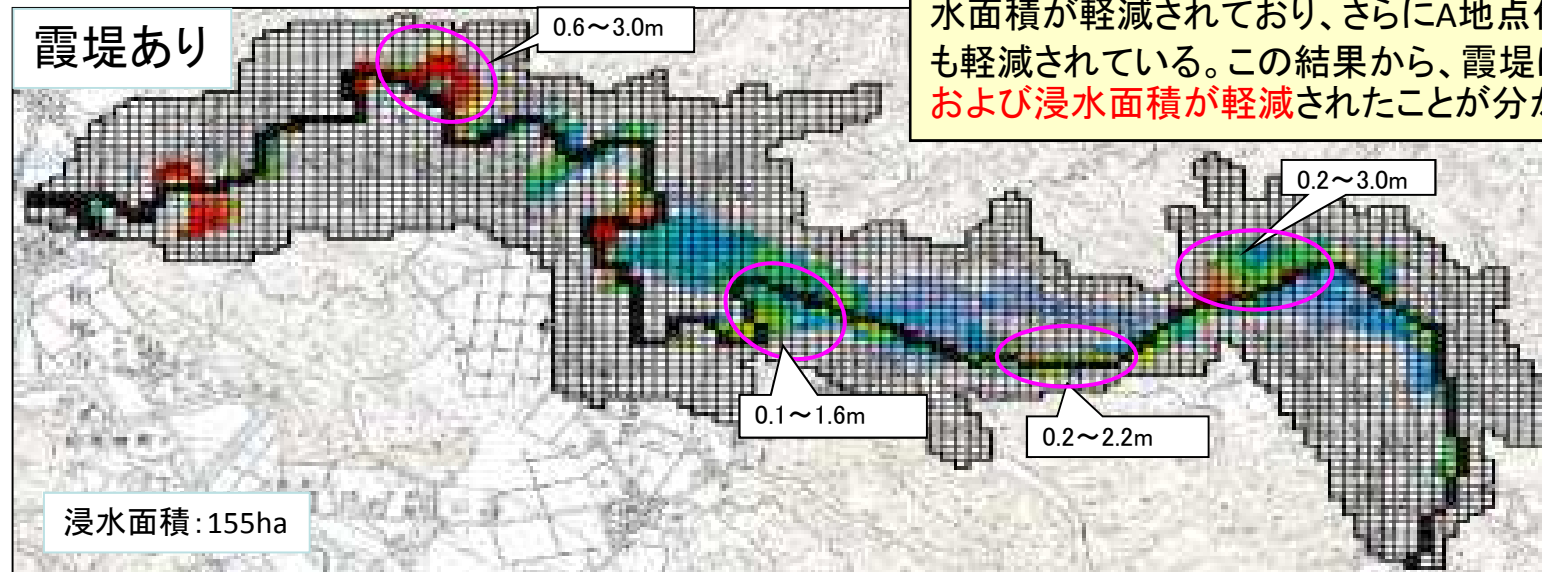
霞堤では、河川の水位低下と共にはん濫水は自然に排水されます。

④洪水後

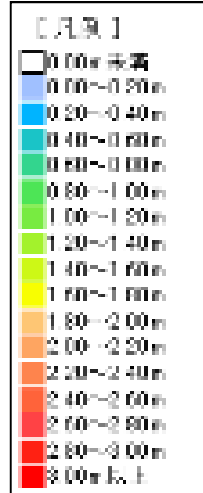
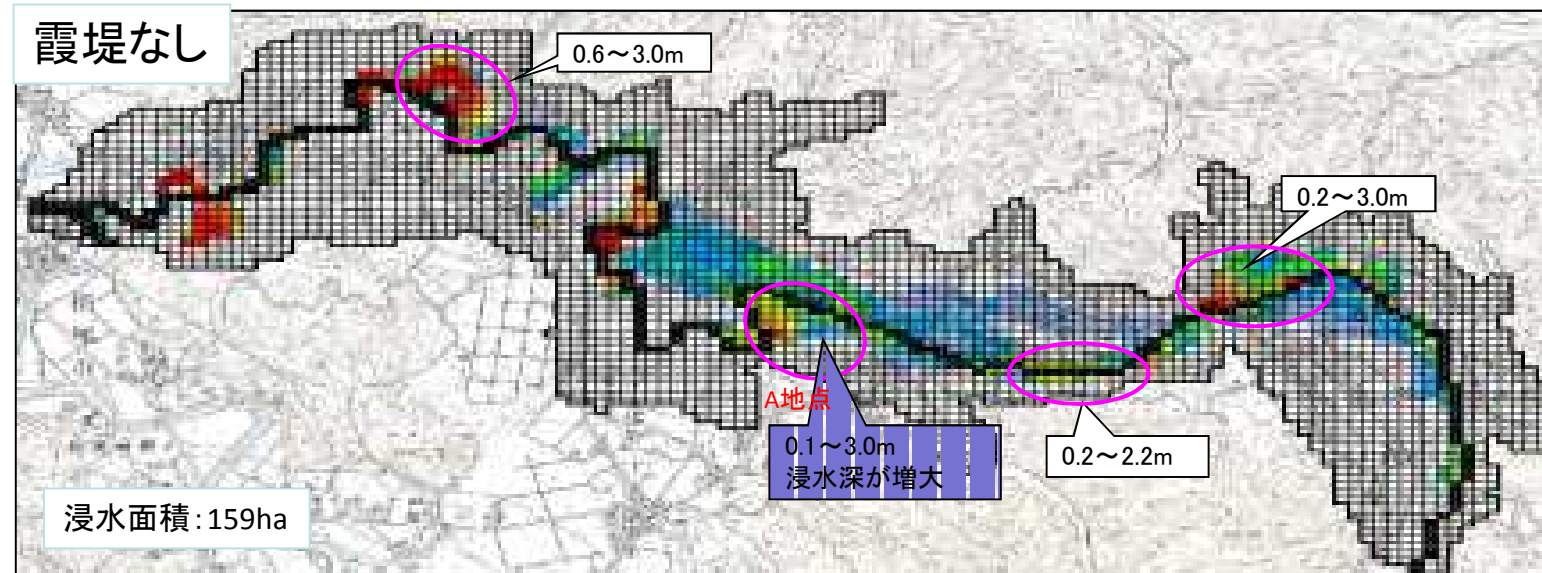


### 意見③ H23年洪水における霞堤が果たした役割【現況河道】

#### 浸水状況(最大浸水深)



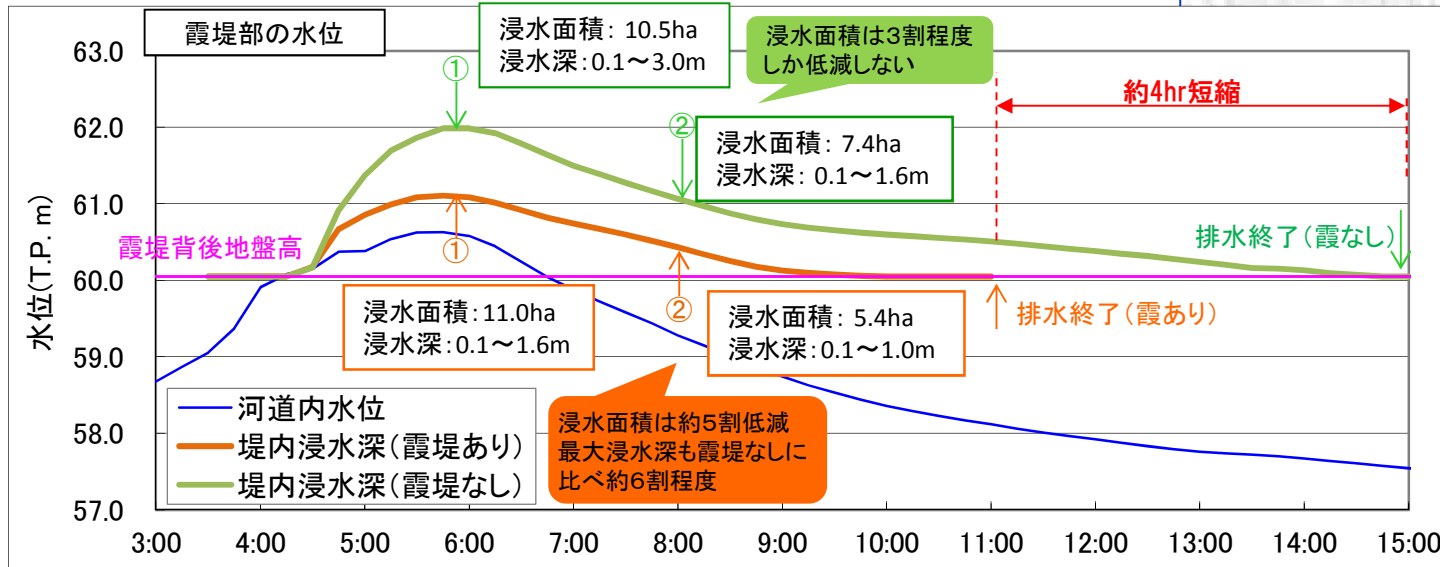
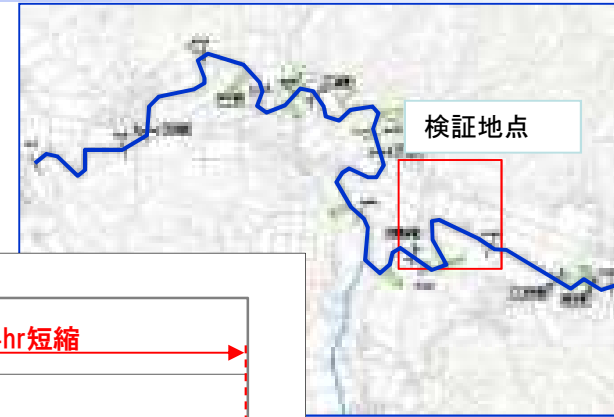
浸水状況を比較すると「霞堤あり」のケースの方が浸水面積が軽減されており、さらにA地点付近の浸水深も軽減されている。この結果から、霞堤により、**浸水深および浸水面積が軽減**されたことが分かる。



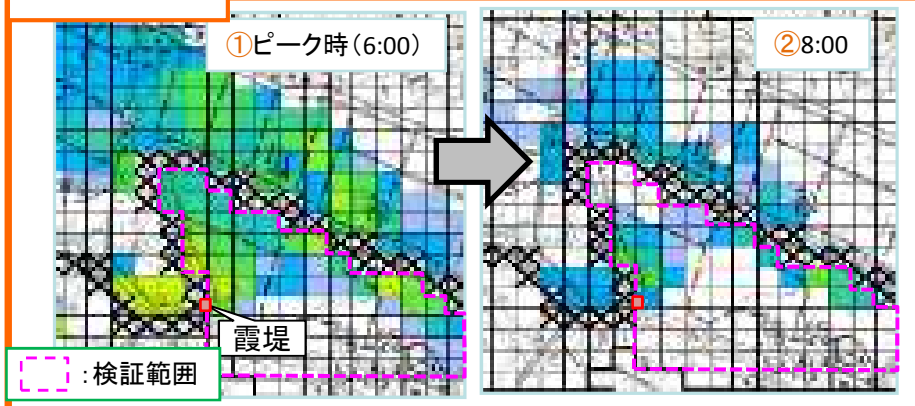
# 意見③ H23年洪水における霞堤が果たした役割【現況河道】

## 浸水状況の時系列変化

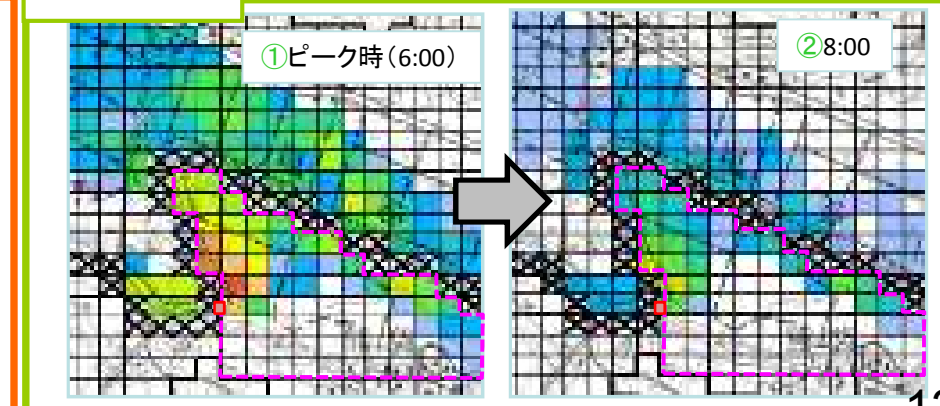
浸水範囲を比較すると「霞堤あり」のケースの方が**早期に氾濫水が排水**されている様子が見られる。このことから霞堤の排水効果により**湛水時間の短縮**につながったことが分かる。



### 霞堤あり



### 霞堤なし



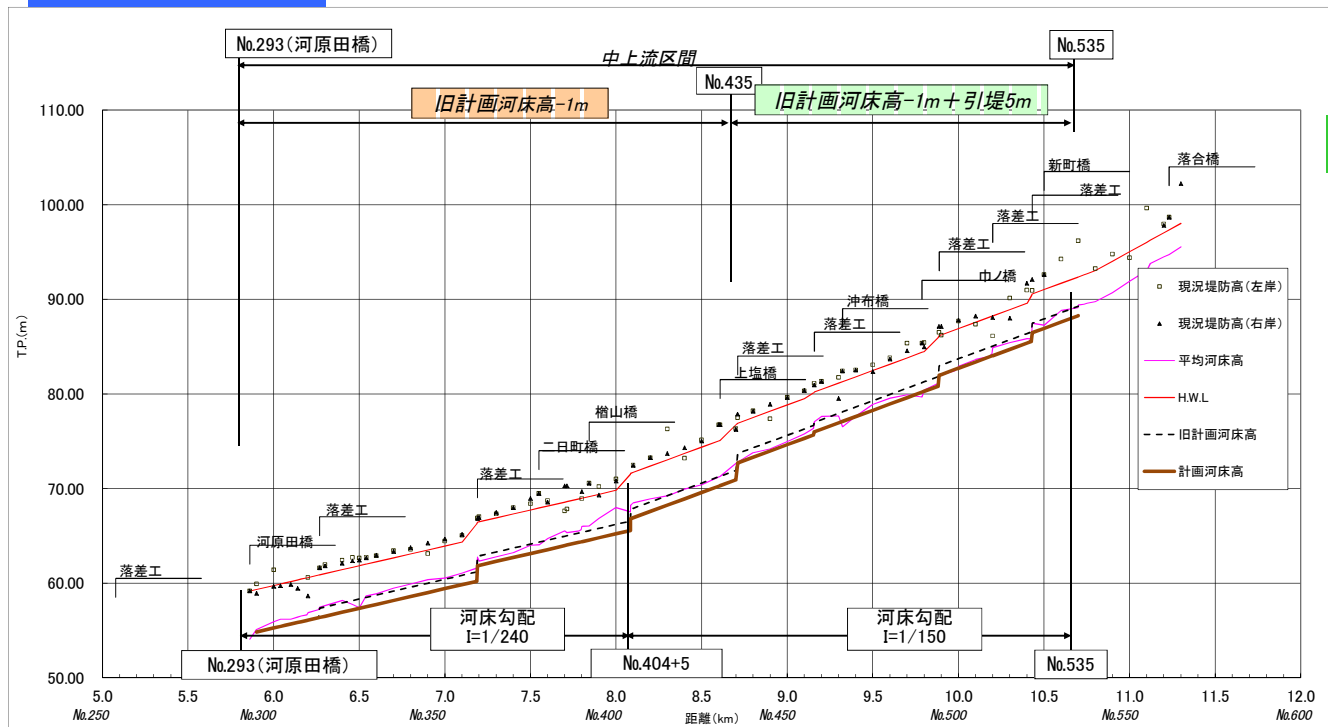
# 意見④ 河床掘削による環境への影響について

○中上流区間では旧計画河床高-1mに計画河床高が設定されているため、河床掘削が必要となります。

○特に中流区間では1m程度の掘削をする区間が多いため、生物等への影響が少なくなるよう努めます。

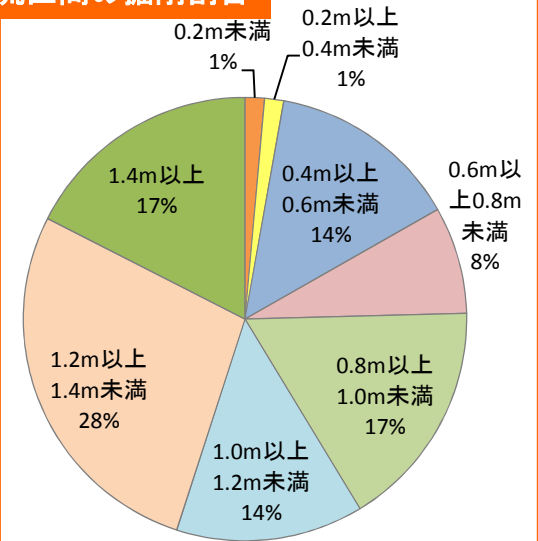
※掘削深さ：平均河床高から計画河床高までの深さ  
 ※掘削割合：延長に対する割合

中上流区間縦断面図

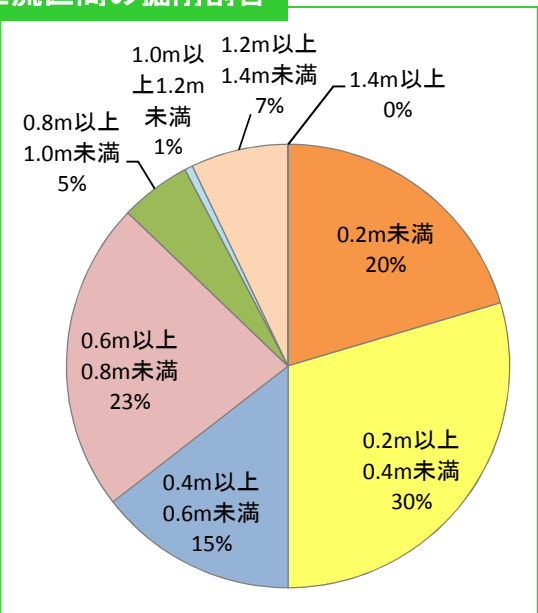


縦断面計画(中上流区間)

中流区間の掘削割合



上流区間の掘削割合



## 意見④ 河床掘削による環境への影響について(底生生物)

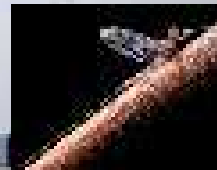
**調査結果** ▶冬季・春季調査の結果113種の底生生物が確認されました、このなかに希少種は確認されませんでした。

**施工時の対応** ▶確認種の主体は水生昆虫であることから、ほとんどは成虫期に水上へ出て生活するため、広域に移動することが可能であり、工事後に回復するものと予測します。  
▶施工においては、掘削範囲を上下流・左右岸に分割することにより生息地を残します。  
▶水際をなだらかにし水深帯に変化をつけることにより、整備後の生息地は確保します。

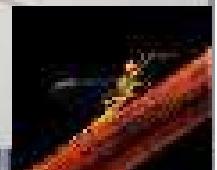
サワガニ



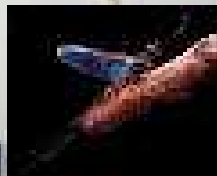
シロハラコカゲロウ



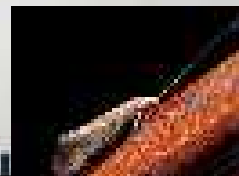
シロタニガワカゲロウ



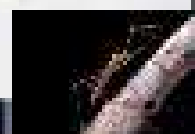
オオクママダラカゲロウ



シマトビケラ科Cheumatopsyche 属



ガガンボ科Antocha 属



## 意見④ 河床掘削による環境への影響について(魚類)

**調査結果** ▶冬季・春季調査の結果17種の魚類が確認されました。その中で希少種として、スナヤツメ、ヤリタナゴ、ホトケドジョウ、アカザ、カジカが確認されています。

**施工時の対応**

- ▶塩谷川を生息場所としている魚類は全区間で確認されており、掘削等による一時的な減少(消滅)は工事後に回復するものと予測します。
- ▶繁殖期の掘削は避けること、掘削範囲を上下流・左右岸に分割し生息地を残すこと、施工中に採取される種は上流域へ放流することなど生息に配慮します。
- ▶水際をなだらかにし水深帯に変化をつけることより、整備後の生息地は確保します。



## 意見④ 河床掘削による環境への影響について(植物)

**調査結果** ▶塩谷川では70科180種の植物が確認されましたが希少種は確認されませんでした。

**施工時の対応** ▶水際に繁茂する主な種としてはツルヨシやヨシ、ススキであるため、掘削による一時的な減少については工事後に回復すると予想されます。  
▶掘削により出現した裸地に在来種が早期に回復するように、締固めを極力おこなわずに表土撒きだし等の対策をおこないます。

水際に繁茂する植生

ツルヨシ群落



ヨシ群落



比較的乾燥した場所に繁茂する植生

ススキ群落

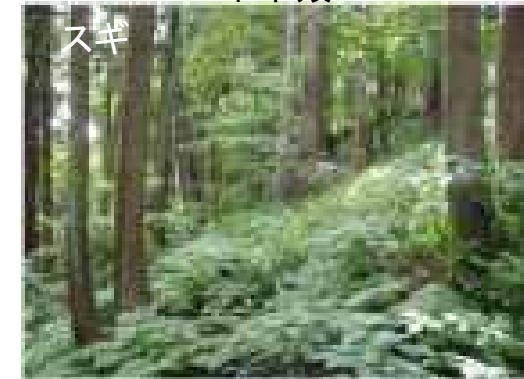


セイタカアワダチソウ



木本類

スギ



ニセアカシア  
(ハリエンジュ)



# 意見⑤ 水質および排水調査地点(春季)



調査対象の河川および排水

番号	調査箇所名	種類	調査対象となる排水の種類	備考
①	飯沼津田セウゾー(排水)	排水	排水	飯沼津田セウゾー排水
②	山ノ内川(排水)	普通排水	生活	
③	山ノ内川(排水)	一般排水	生活、畜産	
④	山ノ内川(排水)	普通排水	生活、畜産	
⑤	山ノ内川(排水)	普通排水	生活、畜産	
⑥	山ノ内川(排水)	排水	生活、畜産、商業等	排水処理
⑦	山ノ内川(排水)	普通排水	生活、畜産	
⑧	山ノ内川(排水)	排水	生活	
⑨	山ノ内川(排水)	一般排水	生活、畜産	

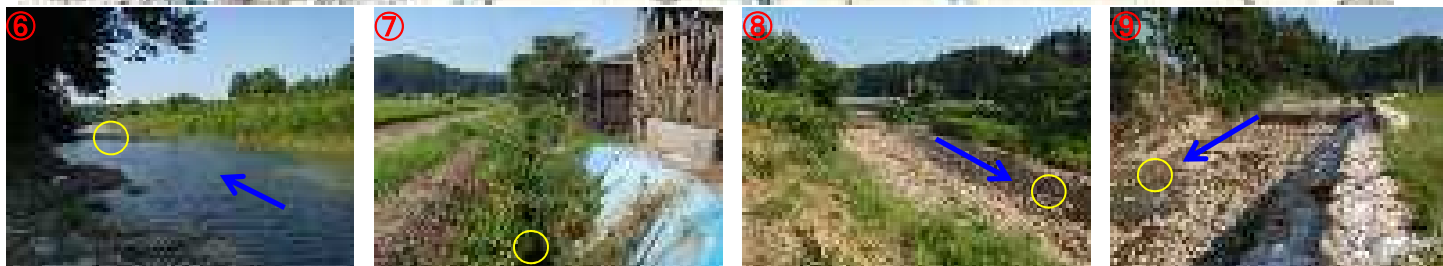


# 意見⑤ 水質および排水調査地点(夏季)



調査対象の河川および排水

番号	調査地点名	流入支川	本川	種別
①	塩谷浄化センター	○		排水路 (浄化センター排水を含む)
②	塩谷浄化センター合流点		○	上記合流後の本川
③	トドメキ川	○		普通河川
④	トドメキ川合流点		○	上記合流後の本川
⑤	田中沢川	○		一級河川
⑥	田中沢川合流点		○	上記合流後の本川
⑦	二日町橋下流	○		排水路 (養豚場排水を含む)
⑧	二日町橋下流合流点		○	上記合流後の本川
⑨	新町橋		○	上流工区の本川



## 意見⑤ 塩谷川本川の水質について

### ○水質調査結果について

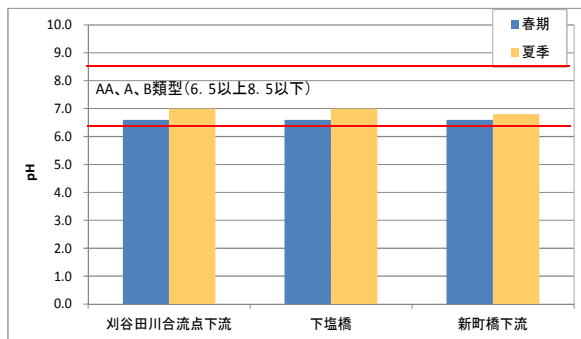
採水による水質調査の結果では、「刈谷田川合流点下流市道橋」、「下塩橋」、「新町橋下流」の3地点の間でpH,BOD,SSの値に大きな差はみられない。

- ・pHはいずれの地点においてもAA、A、B類型に相当する6.5以上8.5以下である。
- ・BODは最大の値を観測した「下塩橋」においても1.8 mg/lであり、いずれの地点もA類型の環境基準に相当する値である。
- ・SSはいずれの地点についても春季調査時のほうが高い傾向にある。これは、春季調査時は融雪出水期だったことが影響していると考えられる。そのため、夏季調査結果ではいずれの地点においてもAA、A、B類型に相当する値である。

以上の調査結果より塩谷川は概ねA類型を満足する河川である。

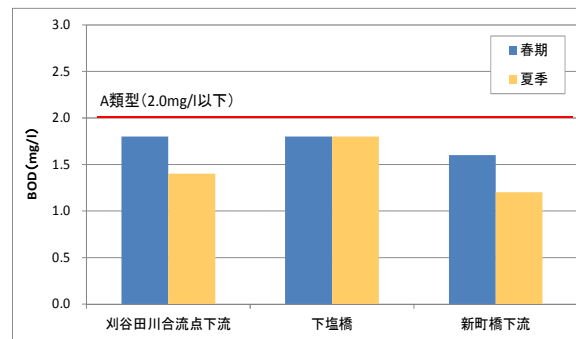
※塩谷川は環境基準類型指定されていない。

河川の類型指定: 河川に関する環境基準のうち、生活環境の保全に関する環境基準は、AA類型からE類型(AA、A、B、C、D、E)まで定められており、AA類型が一番良い水質を示しています。なお、河川への類型の適用は国または都道府県が指定し、類型指定が行われない河川も存在します。



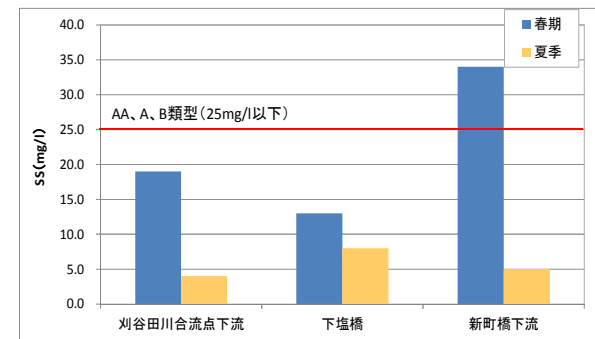
(pH調査: H24年4月、8月)

※pHは水の酸性、アルカリ性の度合いを示す指標です。生物の生育には河川では通常pH6.5～8.5が適しているといわれています。



(BOD調査: H24年4月、8月)

※BODは水中の有機物が微生物により分解されるときに消費される酸素の量です。一般的にBODが高いほど水中に多く有機物が含まれます。



(SS調査: H24年4月、8月)

※SSは水中に浮遊又は懸濁している土粒子や動植物プランクトンの総称です。SSが高いと魚類や植物に影響することがあります。

## 意見⑤ 流入支川(排水等)の水質について

### ○排水基準との比較

- ・「二日町橋下流」「塩谷浄化センター」「トドメキ川」において、COD調査は比較的高い値が検出された。
- ・春季調査でCODの最大値は二日町橋下流の20mg/Lであった。夏季調査でも、CODの最大値は塩谷浄化センター付近の20mg/Lであった。総理府令で定めてる「一律基準」による基準値(160mg/L)は大きく下回っている。

#### 春季調査結果

No.	調査箇所名	透視度 (cm)	流量 (m <sup>3</sup> /s)	COD (mg/l)	汚濁負荷量 (g/s)
1	塩谷浄化センター	5.0	0.01	13	0.13
2	トドメキ川	3.5	0.02	10	0.20
3	田中沢川	14.5	0.13	7	0.94
4	山口沢川	31.0	0.11	6	0.65
5	寅谷川	78.0	0.02	6	0.11
6	二日町橋下流	12.0	0.11	20	2.23
7	檜山橋下流	42.5	0.02	6	0.11
8	六代川	67.5	0.09	4	0.36
9	巾ノ橋	71.5	0.02	4	0.06
10	平中之俣川	72.0	0.11	4	0.45

#### 夏季調査結果

No.	調査地点名	透視度 (cm)	流量 (m <sup>3</sup> /s)	COD (mg/l)	汚濁負荷量 (g/s)
1	刈谷田川合流点下流市道橋	-	-	7	-
2	塩谷浄化センター	66.0	0.003	20	0.06
3	塩谷浄化センター合流点	54.0	0.232	6	1.39
4	トドメキ川	0.5	0.007	13	0.09
5	トドメキ川合流点	59.0	0.227	6	1.36
6	下塩橋	-	-	7	-
7	田中沢川	13.0	0.003	4	0.01
8	田中沢川合流点	64.0	0.220	6	1.32
9	二日町橋下流	19.0	0.041	17	0.70
10	二日町橋下流合流点	60.0	0.211	7	1.48
11	新町橋下流	14.0	0.140	7	1.02

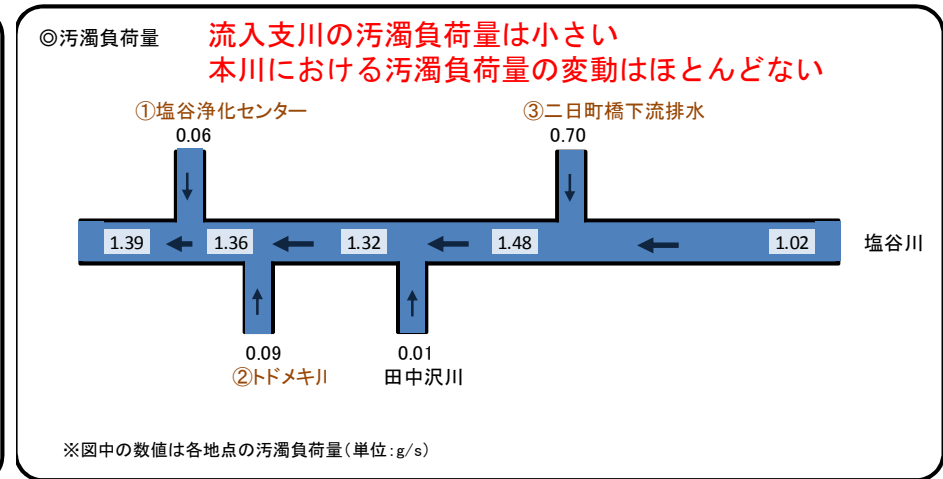
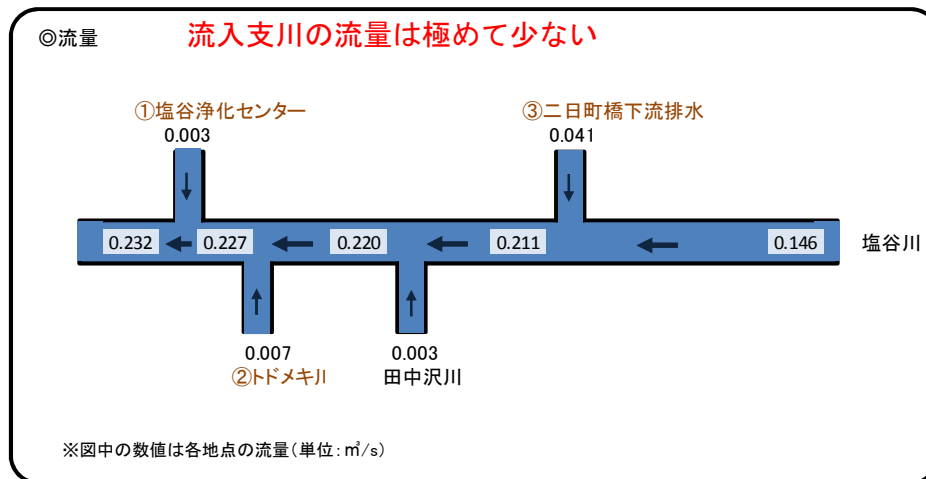
## 意見⑤ 流入支川(排水等)の水質について

### OCOD計測結果(夏季調査による)

いずれの排水も、合流後のCODは6~7mg/lであり、希釈され塩谷川への影響は、ほとんどない。

①塩谷浄化センター	COD:20mg/l	→ 合流後の本川	COD:6mg/l
②トドメキ川	COD:13mg/l	→ 合流後の本川	COD:6mg/l
③二日町橋下流	COD:17mg/l	→ 合流後の本川	COD:7mg/l

### ○本川における汚濁負荷量(夏季調査による)



### **3. 住民説明会における地元住民の意見**

# 住民説明会の開催について

## 信濃川下流（山地部）圏域河川整備計画～塩谷川流域住民説明会～

- ・ 開催日 平成24年7月11日
- ・ 時間 19:00～20:30
- ・ 開催場所 栃尾産業交流センター「おりなす」
- ・ 出席者数 住民70名



住民説明会の開催風景

# 住民説明会での意見について

事務局説明に対して、住民の方々から下記のようなご意見がだされた。

No	質問者	質問の内容	事務局回答
①	住民 男性	塩谷川の整備規模が1/50年確率ということだが、H23年7月の洪水(1/70年確率)が起こった場合、また浸水被害が出るのではないか。	下流の刈谷田川に極力負担をかけないように確率規模を低減している。ただし人家部においては堤防満杯以下で被災流量(1/70年確率)相当を流下することが可能である。
②	住民 男性	塩谷川の現在の川幅を教えてください。	上流区間は平均して約30m、中流区間は約37m、下流区間は約50mである。
③	住民 男性	今後の計画・工事のスケジュールについて教えてください。	河川整備計画については、8月下旬～9月上旬頃に第2回協議会を予定している。 中上流工区における工事の説明については秋口を予定している。

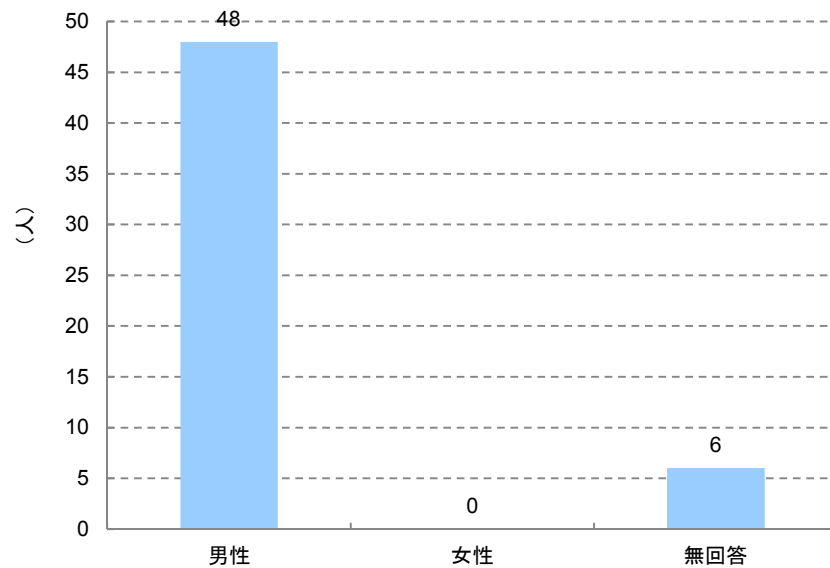
## 4. 住民説明会アンケート結果

# アンケートについて

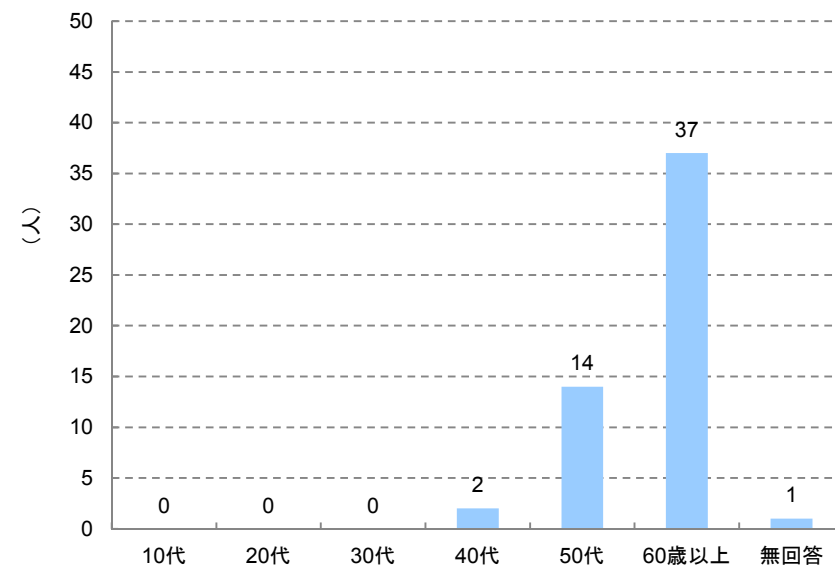
■目的：現在の河川の姿、今後期待される姿、河川への係わり合い等を主眼にアンケート調査を実施

■回答数：54通

参加者の約8割が男性(不明約2割)  
主な年齢層は50代～60代以上(参加者の9割以上)である



男女別構成比

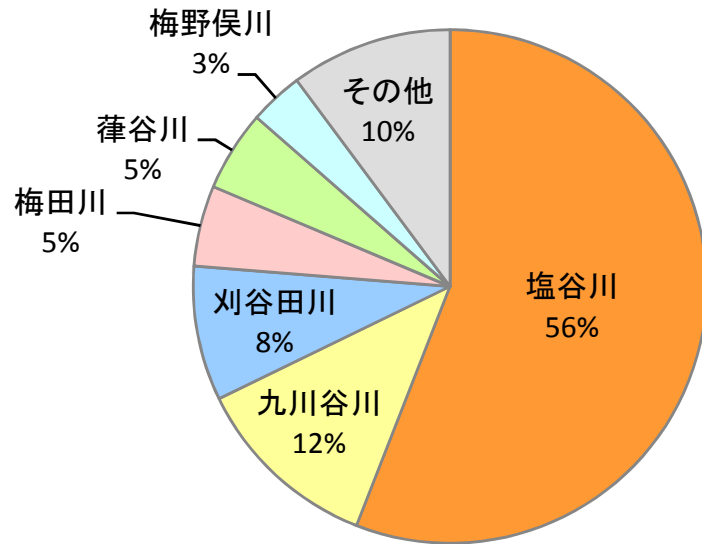


年代別構成比

# アンケート調査結果(1)

①あなたの「身近にある河川」はどこですか

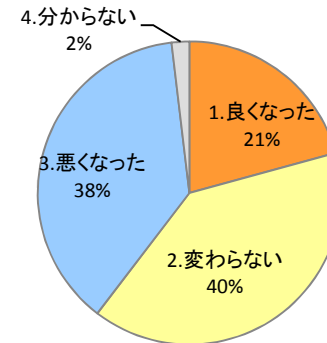
・塩谷川が半分を占めている。



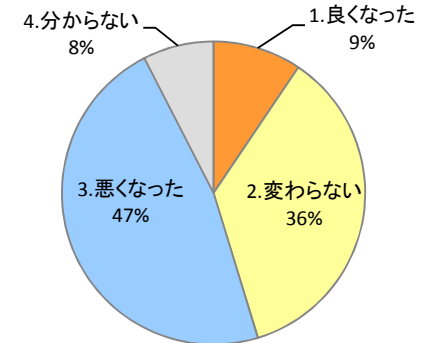
②あなたの「身近にある河川」は、この10年くらいの間にどのように変わったと思いますか

・治水面、水質に関する意見の3~4割は「変わらない」または「悪くなった」と評価  
 ・利水面、環境面、河川利用では約半数が「悪くなった」と評価

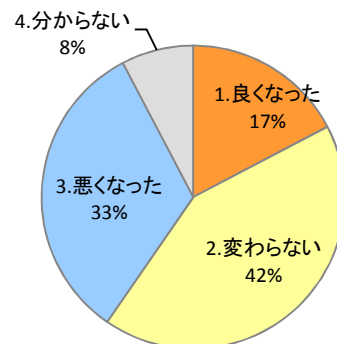
堤防や護岸の整備



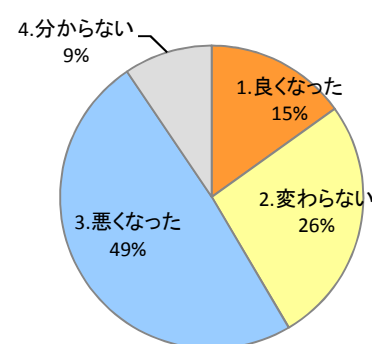
水の量



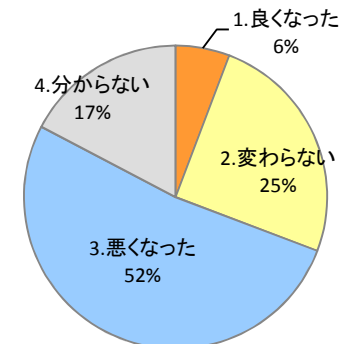
水質



動植物の生息・生育環境



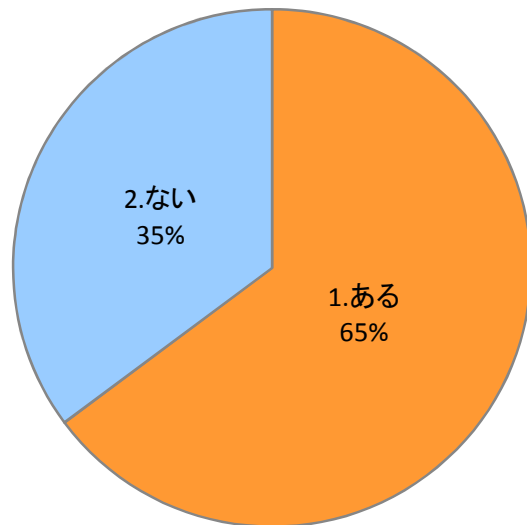
人々が川で親しむ姿



## アンケート調査結果(2)

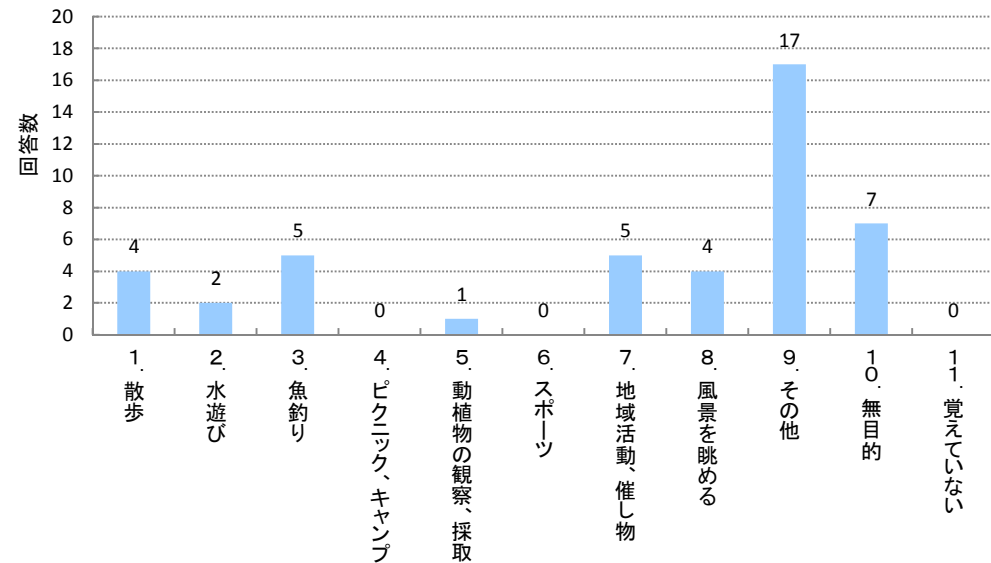
③この1～2年の間に「身近にある河川」に出かけたことはありますか

6割程度の方々が、河川に出かけており、河川に対する関心は高い



④主にどのような目的で川へ出かけましたか(複数回答可)

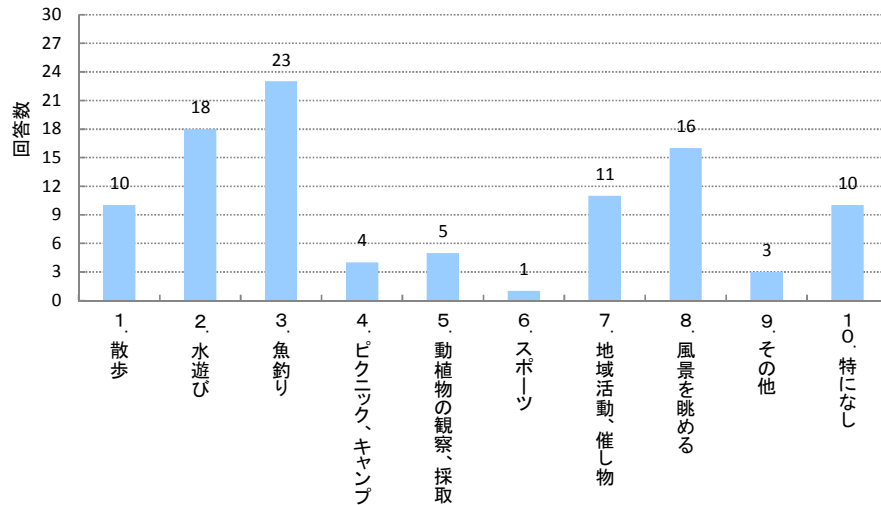
・その他の意見が多く、その目的として農業用水路の維持管理等の目的が11人と多く見られた  
・散歩や魚釣り、地域活動などの親水目的や魚釣り、地域活動などの河川利用も見られた



# アンケート調査結果(3)

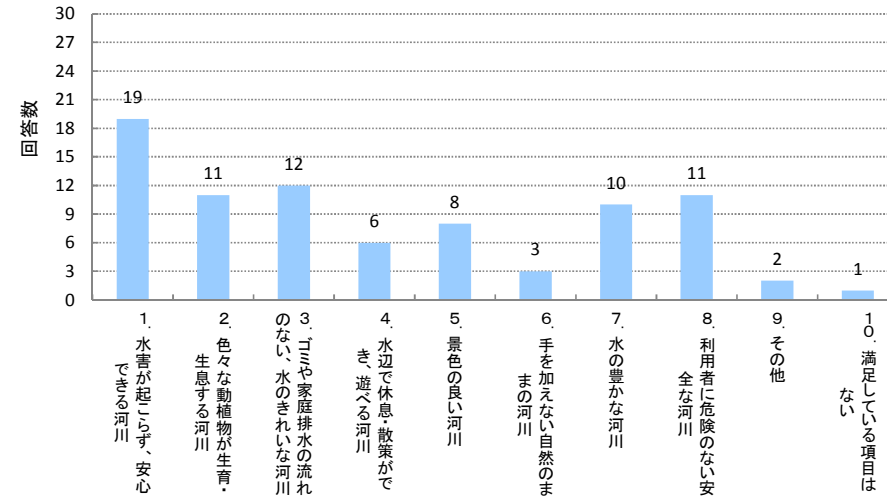
⑤これから「身近にある河川」で、できると良いと思うのはどんなことですか(複数回答可)

- ・散歩、水遊び、魚釣り、地域活動、催し物、風景を眺める等に対する期待が大きい



⑥あなたは現在、「身近にある河川」を考えたとき、何について満足していますか(複数回答可)

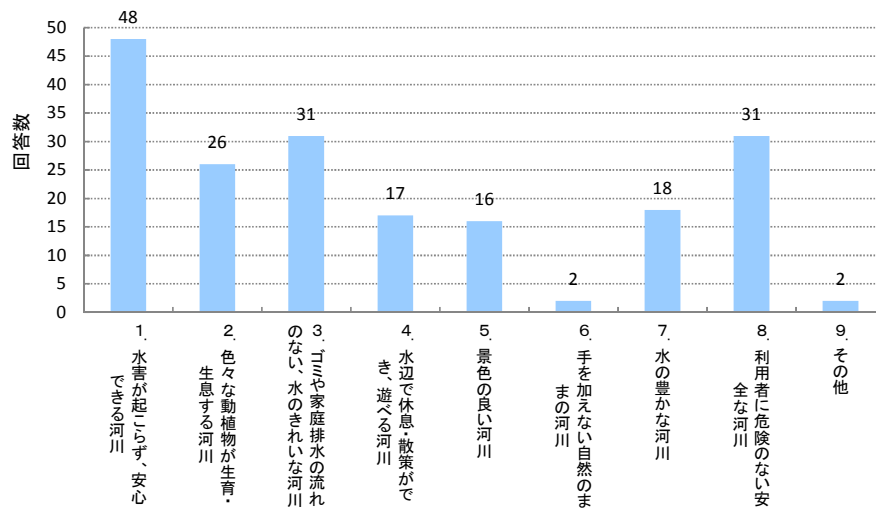
- ・水害に対して安全であるとの認識が多い
- ・環境面、利水面に対しても満足している意見が見られる



# アンケート調査結果(4)

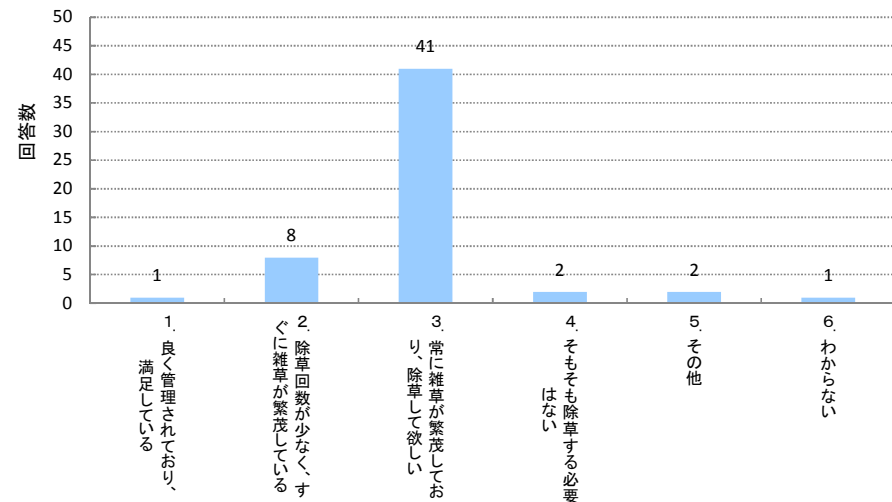
⑦あなたは今後の「身近にある河川」について、特に何を期待しますか(複数回答可)

- ・水害の起こらない、安心できる河川や、豊かな環境、きれいな水質等に対する期待が大きい
- ・遊べる河川、利用者に危険のない安全な川作りに対する期待も多い



⑧あなたの「身近にある河川」の除草についてどのように感じていますか(複数回答可)

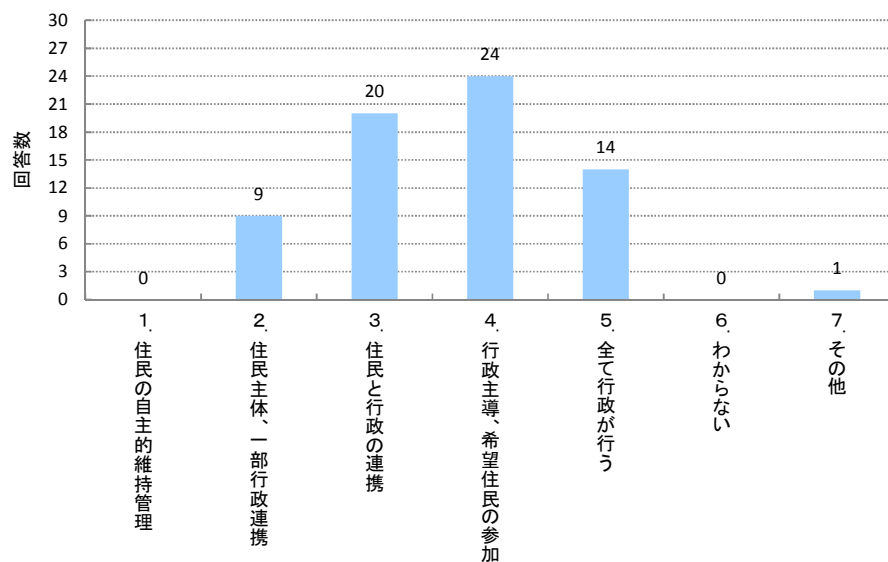
- ・除草してほしいという要求が多い



## アンケート調査結果(5)

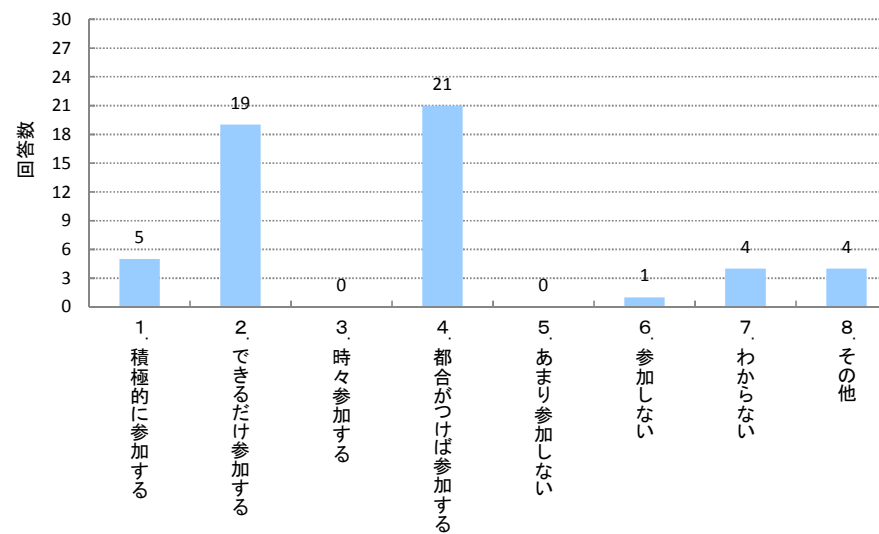
⑨今後、河川の維持管理(清掃、除草など)については、どのように行っていくべきだと思いますか(複数回答可)

・行政主導で行うべき、住民と行政の連携との意見が多く、住民主体による自主的な管理は望まれていない



⑩今後、あなたは地域やボランティア団体などの呼びかけにより、河川に関して話し合う集会(ワークショップ)や、河川の維持管理(清掃、除草など)活動への参加要請・募集があったら参加する意思はありますか

・出来るだけ参加する、都合が付けば参加するなど、種々の活動への参加要請に対する意識は高い



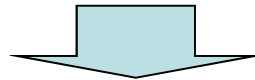
## アンケート調査結果(6)

主な意見等	
○治水に関する意見	・水害のない安心できる川。
○維持管理に関する意見	・昔のように地域住民が、生活の為(農業用水や魚を漁ったり)に、川を管理するには、生活水準が変わったり、農村人口の減少、高齢化により不可能。行政が主導し、ボランティアなどを利用して共同で管理していくしかない。
	・河川改修しても数十年経過すると川床に土砂がたまって流れが悪くなる。定期的に川底の整備が必要と思われる。
○環境に関する意見	・改修により生物がいなくなる川になってしまうのは良くない。
	・予算削減の為か、近年河床に雑草が繁茂していて景観の面からもよろしくない。

## アンケート調査まとめ

アンケート結果を踏まえ、本整備計画へ求められている事項

- ①水害の無い、安心・安全な川づくりを目指すこと
- ②行政・住民が協力した河川の維持管理をおこなうこと
- ③良好な河川環境や景観、散歩・魚釣りなど親水面に配慮した整備を実施すること



今回、塩谷川の河川整備計画を策定し改修事業を行うことで、安心・安全な川づくりを目指します。そのうえで、計画を上回る規模の洪水に対しては、官民一体となった水防体制が必要です。

### 2.3 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項

(中略) ※住民説明会で提示した治水に関する目標

平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害が生じた塩谷川については、刈谷田川との河川整備規模のバランスを考慮するとともに、沿川の土地利用や地形特性を踏まえた河川整備により、流域内の他の支川と同程度の治水安全度を確保することを目標とします。

# アンケート調査まとめ

アンケート結果を踏まえ、本整備計画へ求められている事項

- ①水害の無い、安心・安全な川づくりを目指すこと
- ②行政・住民が協力した河川の維持管理をおこなうこと
- ③良好な河川環境や景観、散歩・魚釣りなど親水面に配慮した整備を実施すること

②に対しては



現行の河川整備計画における維持管理に関する目標に概ね合致  
(本文P.37に記載済)

## 2.6 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、河川の現状や地域の特徴を踏まえつつ、洪水などによる災害発生防止、または軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全などの観点から堤防及び護岸等の河川管理施設の機能について定期的に点検を行い、一定の水準を確保することを目標とします。

河道内に繁茂した樹木や堆積土砂については、流水の阻害とならないよう、動植物の生息・生育環境への影響などに配慮しながら適切に除去します。

また、河川への不法投棄の防止や清掃などの河川美化については、地域住民や関係機関などと協力しながら適正な管理に努めるものとします。

# アンケート調査まとめ

アンケート結果を踏まえ、本整備計画へ求められている事項

- ①水害の無い、安心・安全な川づくりを目指すこと
- ②行政・住民が協力した河川の維持管理をおこなうこと
- ③良好な河川環境や景観、散歩・魚釣りなど親水面に配慮した整備を実施すること



現行の河川整備計画における環境に関する目標に概ね合致  
(本文P.36に記載済)

## 2.5 河川環境の整備と保全に関する事項

「信濃川水系河川環境管理基本計画」や「新潟県水環境保全基本方針」などの関連計画と整合を図りながら、動植物の良好な生息・生育環境の保全、良好な景観の維持形成、流水の清潔の保持、人と河川の豊かなふれあいの場が確保できるよう、河川環境の整備と保全を行うことを目標とします。治水面における安全で安心できる改修を行うだけでなく、河川環境のモニタリングを実施し、河川環境への影響を極力低減するよう努めるとともに、本来の生物群集と生息・生育環境の保全・復元を図ることを目標とします。

## 5. 塩谷川河川整備計画(案)について

# 河川整備計画本文への記載

## 「信濃川下流(山地部)圏域河川整備計画(案) 資料-5」より

### 第2章 河川整備計画の目標に関する事項

#### 2.3 洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する事項

赤書き：住民説明会で提示した記載内容  
青書き：今回協議会で提示する記載内容  
紫書き：五十嵐川の記載内容

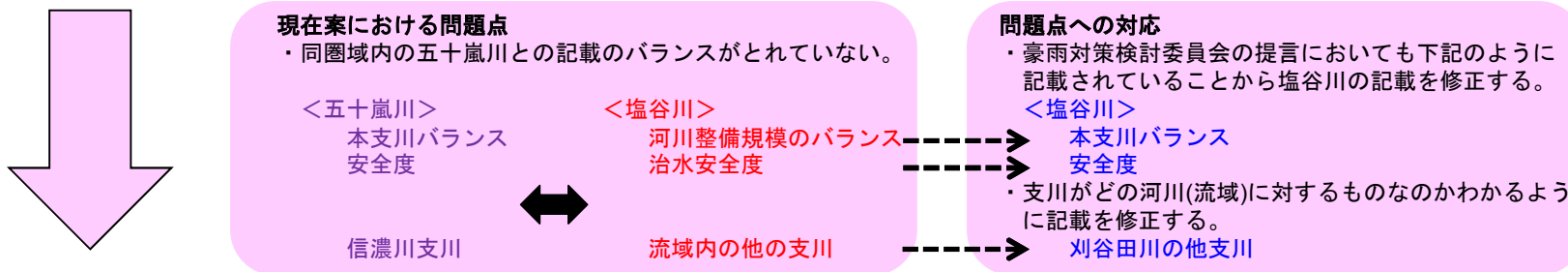
### ■ 現在案

#### <塩谷川>

平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害が生じた塩谷川については、刈谷田川との河川整備規模のバランスを考慮するとともに、沿川の土地利用や地形特性を踏まえた河川整備により、流域内の他の支川と同程度の治水安全度を確保することを目標とします。

#### <五十嵐川>

平成16年豪雨を上回る平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害を受けた五十嵐川については、信濃川との本支川バランスを考慮し、刈谷田川などの信濃川支川と同程度の安全度を確保することを目標とします。これにより、同豪雨の一山目となる7月29日までの降雨による洪水と同規模の洪水を安全に流下させることができます。



### ■ 修正案

(中略)

平成16年7月13日の洪水により甚大な被害が生じた刈谷田川については、同規模の洪水に対し安全に流下できるようにすることを目標とします。平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害が生じた塩谷川については、刈谷田川との本支川バランスを考慮するとともに、沿川の土地利用や地形特性を踏まえた河川整備により、刈谷田川他支川と同程度の安全度を確保することを目標とします。

平成16年豪雨を上回る平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害を受けた五十嵐川については、信濃川との本支川バランスを考慮し、刈谷田川などの信濃川支川と同程度の安全度を確保することを目標とします。これにより、同豪雨の一山目となる7月29日までの降雨による洪水と同規模の洪水を安全に流下させることができます。

# 河川整備計画本文への記載

## 「信濃川下流(山地部)圏域河川整備計画(案) 資料-5」より

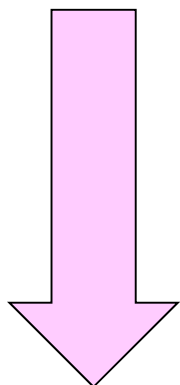
### 第3章 河川整備の実施に関する事項

#### 3.2 個別河川の整備に関する事項

赤書き：住民説明会で提示した記載内容  
青書き：今回協議会で提示する記載内容

#### ■ 現在案

塩谷川は、見附市杉澤町(刈谷田川合流点)より長岡市塩新町(新町橋上流)において、築堤、掘削、護岸等を実施します。  
河川整備に際しては、平成23年7月新潟・福島豪雨で浸水した上流部の集落を守ることを最優先に、沿川の土地利用や谷底平野部の地形を踏まえ、上下流のバランスなどを考慮した河道改修とします。  
また、現況の自然環境や社会的影響を考慮しつつ、治水上の効果が早期に発揮できるよう施設計画するとともに、動植物の良好な生息・生育環境の保全、良好な景観の維持形成などが確保できるよう配慮します。



#### 現在案における問題点

- ・地点の記載が災害復旧助成計画と統一されていない。

<現在案>  
塩新町

- ・区間ごとの改修方針がわかりづらい。

<現在案>  
平成23年7月新潟・福島豪雨で浸水した上流部の集落を守ることを最優先に、沿川の土地利用や谷底平野部の地形を踏まえ、上下流のバランスなどを考慮した河道改修

#### 問題点への対応

- ・記載を統一する。

<修正案>  
上塩町

- ・下流部と中上流部それぞれの改修方針を分けるとともにその内容を記載する。

<修正案>  
中上流部では平成23年7月新潟・福島豪雨で浸水した集落を守ることを最優先とし、下流部では霞堤の機能や地形特性を生かした河道改修

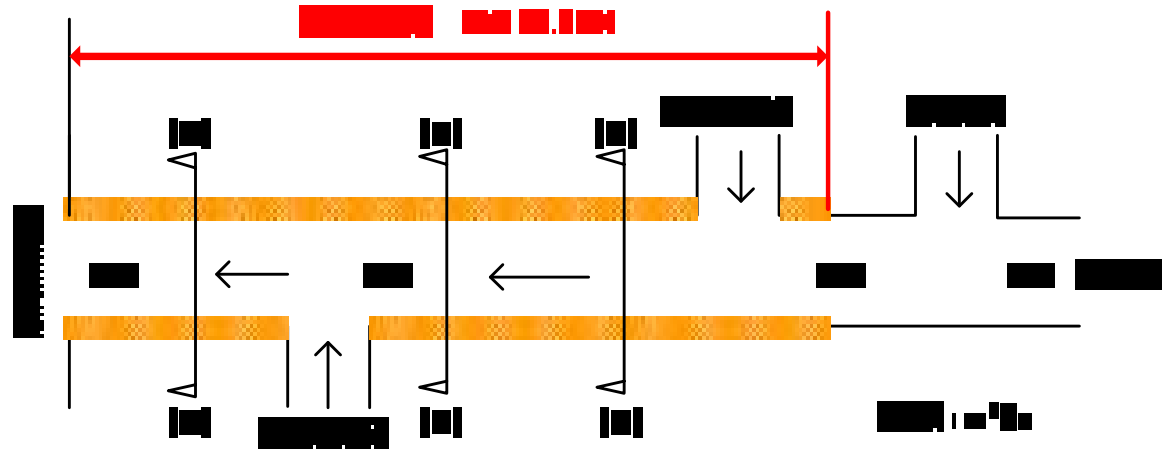
#### ■ 修正案

塩谷川は、見附市杉澤町(刈谷田川合流点)より長岡市上塩町(新町橋上流)において、築堤、掘削、護岸等を実施します。  
河川整備に際しては、中上流部では平成23年7月新潟・福島豪雨で浸水した集落を守ることを最優先とし、下流部では霞堤の機能や地形特性を生かした河道改修とします。  
また、現況の自然環境や社会的影響を考慮しつつ、治水上の効果が早期に発揮できるよう施設計画するとともに、動植物の良好な生息・生育環境の保全、良好な景観の維持形成などが確保できるよう配慮します。

# 塩谷川河川整備計画本文(案)



# 塩谷川河川整備計画本文(案)



塩谷川計画高水流量配分図



※横断形は、現地精査により変更する場合があります

塩谷川計画横断形

# 河川整備計画本文への記載

## 「信濃川下流(山地部)圏域河川整備計画(案) 資料-5」より

### 第4章 情報の共有と流域との連携

#### 4.1 災害の防止・軽減に関する連携

〔 青書き : 今回協議会で提示する記載内容 〕

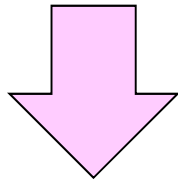
#### ■ 現行の本文

圏域内川の災害の防止・軽減については、河道改修、遊水地、排水機場の設置、ダムの嵩上げなどのハード対策に加え、水田の貯留効果や森林の保水能力を極力維持できるよう、地元自治体など関係機関と連携を図ります。

ソフト対策としては浸水実績図や重要水防箇所等の公表や、浸水想定区域図の作成により、市町のハザードマップ作成を支援します。

また、河川防災情報システム、土砂災害情報システムなどを整備し、災害に関する情報を積極的に提供します。

情報の共有としては、河川情報収集のために適宜河川パトロールを行い、洪水時には河川水位や出水状況、水防活動などの情報提供に努めます。また、水質事故等が発生した場合には関係機関と連携し、関連する情報を関係市町や住民に周知されるよう努めます。



#### 現行の本文に対する変更点

- ・霞堤については、堤内地の土地利用を考慮しつつ、その効果を確認しながら保全する計画であることから整備計画へ記載する。
- ・霞堤は超過洪水に対して有効に機能するため本事項に追記する。

#### ■ 変更案

圏域内川の災害の防止・軽減については、河道改修、遊水地、排水機場の設置、ダムの嵩上げなどのハード対策や霞堤の保全に加え、水田の貯留効果や森林の保水能力を極力維持できるよう、地元自治体など関係機関と連携を図ります。

ソフト対策としては浸水実績図や重要水防箇所等の公表や、浸水想定区域図の作成により、市町のハザードマップ作成を支援します。

また、河川防災情報システム、土砂災害情報システムなどを整備し、災害に関する情報を積極的に提供します。

情報の共有としては、河川情報収集のために適宜河川パトロールを行い、洪水時には河川水位や出水状況、水防活動などの情報提供に努めます。また、水質事故等が発生した場合には関係機関と連携し、関連する情報を関係市町や住民に周知されるよう努めます。

## 6. 今後のスケジュールについて

# 今後のスケジュール

